

04年6月創刊準備号

04年秋 VOL.1

編集委員座談会 『現代の理論』のめざすもの

尾本恵市「日本どこからどこへ」

世界史の現況と根源的な時代認識／新しい「文明」モデルの創出へ向けて／戦後日本の思想と運動をどう総括するか

◎創刊記念対談
ヒトは、いかなる星のもとに生きるのか

沖浦和光 橋川俊忠 住沢博紀 小寺山康雄 池田祥子 宮崎徹

尾本恵市×沖浦和光

「戦後」は終わらせない…………… 橋川俊忠

日本経済どこからどこへ…………… 小林貞輔

現代日本における抵抗の論理…………… 千本秀樹

「戦後日本」の夢を抱いて…………… 早野 透

護憲は「保守」か…………… 古川 純

「現代の理論」と社会民主主義…………… 住沢博紀

非営利革命の理論…………… 宮崎 徹

経済のグローバル化と新たな市民社会への動き……大沢真知子

「個」を喪失するメディア…………… 魚住 昭

「護憲」住居ネットの裏ですすむ住民情報の丸投げ…………… 瀬下美和

この一冊「稲塚ノートル／植民地主義論」エッセイ…………… 橋本佳子

「現代日本の革新思想」梅本克己・佐藤昇・丸山真男著…………… 安藤紀典

「現代と思想」現代とグラムシ…………… 小原耕一

アジア冷戦・再考…………… 下斗未伸夫

イスラム社会にとつてのイラク戦争…………… 松本敦郎

米朝関係の半世紀……………（講演）ブルース・カミングス
（コメント）和田春樹 林 哲

季刊 現代の理論

総目次紹介

2004年6月・2012年4月 創刊準備号・30号

バックナンバーご入用の方は

●現代の理論編集委員会

Eメール gendainronton@yahoo.co.jp

*セットで（創刊準備号130冊）30,000円

（送料込み）

江川 弘	後藤 仁	山本潤一
細坂繁之	村中仁三郎	片桐 薫
根本がん	西田照見	伊田広行
伊 健次	山家悠紀夫	前田裕略
宗 邦洋	高橋孝吉	川上 徹
白川真澄	山崎耕一郎	梶倉幸一
山本あきこ	瀬下美和	松本 智
今井 勇	小畑精武	金高 毅
上間常道	安藤紀典	松本仁一
中野徹三	又木京子	

総特集 **日本どこからどこへII**

巻頭対談

溶解する日本社会の行方…………… 鎌田 慧×加納実紀代

階層化にゆく労働者イメージ…………… 熊沢 誠

巨大株式会社の危機…………… 奥村 宏

東アジアと日本…………… 金子文夫

地域社会の再生は可能か…………… 澤井 勝

護憲は「保守」か (PART II)…………… 古川 純

家族の「崩壊」と家族主義復活論の迷妄…………… 丸山 茂

不登校の政治的考察…………… 高橋一行

行き止まりのゲッター…………… ソニア・リヤン

社会から文学が消えた?…………… 小畑精和

部落間差別問題から考える関係の変革…………… 千本秀樹

基地帝国と占領の二重性…………… 仲里 効

外国人・民族的少数者の人権基本法を…………… 丹羽雅雄

生きてきたようにしか死ねないのか?…………… 水野博達

【深層】トランスフォーメーションブッシュと米軍革命…………… 小泉 蔵川隆雄

【想うがままに】ぼくがイタリヤ最良になった理由…………… 小寺山康雄

【発信】誰が憲法を護り、誰がねじ曲げているのか…………… 黒田貴史

【この一冊】現代社会主義の省察…………… 富田 武

【封印される不平等】橋本俊昭編者…………… 大野 隆

【現代と思想家】現代に丸山真男を読む…………… 橋川俊忠

特集 **社会的民主主義の最前線**

社会的民主主義の最前線…………… 住沢博紀

二〇世紀西欧社会主義あるいは社会民主主義について…………… ドナルド・サースン

社会的民主主義の理論…………… トーマス・マイヤー

スペイン社会労働党サパテロ首相とイラク戦争…………… フェルナンド・バイエスピ

E.U.リスボン戦略に関するコック報告と社会的ヨーロッパの展望…………… 長尾伸一

サステイナブルシティとE.U.環境ガバナンス…………… 岡部明子

「第三の道」からポスト・デモクラシーへ?…………… 小川有美

緑の政治から見たフランス社会党…………… 畑山敏夫

スウェーデンの高齢者福祉と社会的民主主義…………… 斎藤弥生

知識社会と現代資本主義…………… 後藤邦夫

アジア・ルネッサンス時代の日本の選択…………… 久保孝雄

日本の市民社会は成熟したか…………… 後藤 仁

テキストとしての憲法典と、実践としてのコンスティテューション…………… 杉田 敦

ニュージブランドの「市場化」実験と労使関係法の変遷…………… 要 宏輝

【深層】天下大乱の予感…………… 蔵川隆雄

【頂門一針】自己顕示の時代…………… 頑童山人

【想うがままに】私たちは死んだのか…………… 小寺山康雄

【現代と思想家】マルクスは死んだのか…………… 嶋昭弘

【発信】地域の助け合いの会…………… 石川ものり

【この一冊】中村哲氏の歴史論…………… 西田 照見

【脳と現代】臓器移植法改正案を前に…………… 富沢瑞穂

【医療と現代】臓器移植法改正案を前に…………… 富沢瑞穂

【座談会】若きアイヌの現在と未来…………… 宇佐照代×酒井美直

特集 **破壊的市場主義を超えて**

巻頭対談 いまや政権交代のときがきた…………… 橋本俊昭×森水卓郎

「改革」生活破壊の一〇年…………… 山家悠紀夫

年金と雇用と賃金、生活時間も運転配分せよ…………… 小林良暢

二一世紀初頭の医療改革の選択…………… 二木 立

「雇用破壊」に未来は無い…………… 成川秀明

賃金破壊に歯止めを…………… 小畑精和

市場社会のチェック機能と企業文化…………… 西村 理

広がる経済組織の選択肢…………… 宮崎 徹

「憲法改正国民投票法」の基本原則…………… 石崎 学

イタリアの改憲論の動向と憲法改正国民投票制度…………… 内藤光博

はぐれ組で行こうぜー…………… 山田昌弘

「希望格差社会」のことなど…………… 齋藤 寛

被害者が加害者とされている東海村臨界事故…………… 望月 彰

ノスタルジックな切なさと「つくる会」…………… 川本和彦

裁判員制度・刑事訴訟法の改悪に反対し…………… 権島正法

【世界の定常観】反日デモの実相に迫る…………… 太安淳

【深層】八方塞がり小泉外交…………… 蔵川隆雄

【発信】違いがわからない石原知事のフランス語視覚発言…………… 小畑精和

【朝鮮人被爆死はなぜ多かったか…………… 米澤謙志

【想うがままに】ぼくらが失ったもの…………… 小寺山康雄

【文化時評】魂の踊りと無機質なダンス…………… 陣野俊史

【メディア時評】メディアにとって公共性とは…………… 喜多村俊樹

【現代と思想家】転換期のいま…………… 石橋湛山思想に学ぶ…………… 大竹政一

【この一冊】再生産について…………… ルイ・アルチュセール著…………… 野弘隆

【医療と現代】患者主体の医療…………… シンフォームド・コンセンスト…………… 富沢瑞穂

【別冊】山崎春成を悼む…………… 中岡哲郎

緊急特集 巨大大権力の誕生と日本の行方

ゼロ成長時代に希望はあるか 高信彦
政権はやっぱり闘い取らば 仙谷由人
自己変革し一層開かれた党へ 阿部知子
巨大大権力の誕生と対抗戦略 山田勝

特集 性・エロス・家族の行方

フェミニズムをリアルに生きる 上野千鶴子
「わたしち」という形のせめぎ合い 池田祥子
忘れられたワークシェアリング 竹信三恵子
フェミを見切っているつもりあなたへ イダヒロユキ
フランスの家族と家族法改正 丸山茂
韓国家族制度の変容 大畑龍次
「オニババ化する女たち」をめぐる 大出香江
戦略としての骨盤底筋 「フェミニンな身体性」理論とはなにか 河上睦子
座談会 20代子大(メス)の脱皮論(上) 筑波大学女子学生の語るセクシュアリティ

フオラム・シアターの実験 花崎 攝
身体を通じて考える性・私 松本 智
女性天皇論へのスタンス 加納美紀代
「想うがままに」革命やらんとあかん 小寺山康雄 / 「信門」針
政治学者の罪と罰 頑童山人 / 「世界の定点観測」ソウル 暗転
する日韓関係のいま 青木理 / 「深層」株価回復・小泉相場の陥
穿 小林良暢 / 「メディア時評」熱狂する民主主義とメディアの
危機 喜多村俊樹 / 「の」一冊「自由と保障」ヘーシックインカ
ム論争 トニー・フィッツパトリック著 原澤謙吾 / クリオの顔
ー歴史随想集」E・Hノーマン著 瀬下美和
中国はどこへ現状と展望 叶 芳和
中国から見た日本の改憲問題 金 照徳
沖縄自立・独立派の源流 後田多教
マルクス・エンゲルス思想の再考 西田照見

特集 現代の反動を撃つ

現代における反動とは何か 橋川俊忠
「自由」と「平等」 加藤 節
中曾根と小泉の連続と不連続 早野 透
小泉・信長は改革者にあらず 佐高 信
生きている意欲の喪失―それが大問題だ 沖浦和光
靖国神社が「反靖国」をつくる 千本秀樹
石原慎太郎発言の凡庸さ 小畑精和
軍事化・抵抗・ナシヨナリズム 道場親信
共謀罪に反対する 中村順英
I Cタグ幻想がくり出す監視社会 瀬下美和
憲法改正と東アジア共同体への選択 住沢博紀
イタリヤ左翼再生への試練と課題 松田 博
九条―アジアのものになりえるか 李 京柱

「世界の定点観測」チベット 経済発展で薄れる仏教信仰―庶
民の最大の関心は教育 太安淳 「想うがままに」共助の思想
が勝った 小寺山康雄 / 「発信」ファーブル昆虫記新訳旧訳補
い読み 黒田貴史 / 「メディア時評」公権力に利用される。人権
擁護、強まる排外主義 萎縮するマスメディア 喜多村俊樹 / 「こ
の」一冊「辛亥革命の時代」上野敏彦著 嶋村初吉
「分裂共生論」杉村昌昭著 水野博達 / 「医療と現代」遺伝子診
断・治療の現在 富沢瑞穂
座談会 20代子大(メス)の脱皮論(下) 筑波大学女子学生の語るセクシュアリティ
「現代と思想家」ターウィン 進化論の内と外 河野和男
「書評」二宮波・応用倫理学講座5 性・愛 金井淑子編
金塚貞文

特集 日本文化―その成り立ち

巻頭対談 日本文化の多様な構造 赤坂憲雄x沖浦和光
日本人の起源論をめぐる 尾本恵市
何が列島の文化の豊かさを奪ったのか 千本秀樹
「東アジア共同体」と歴史認識の問題 沖浦和光
日本文化史における秦氏 川上隆志
南蛮文化の文化的影響 笠井恵二
仏教のなかの女性差別 源 淳子
輝ける闇の国家・熊野 和賀正樹
文化の十字路・佐渡 浜野 浩
火の神をたずねて 中山銀士
琉球文化圏の風土性 真久田正
鉢叩きの残像 平松真一
中上健次―闇の国家論 川野真衣

「発信」性別秩序(ジェンダー)をめぐる攻防 池田祥子 / 「文
化時評」二〇一〇年から振り返る四年前のワールドカップ 陣
野俊史 / 「メディア時評」日本は民主主義の国か 喜多村俊樹
「想うがままに」熊沢誠さんの退席を労う 小寺山康雄 / 「こ
の」一冊「傍観者の時代」ドラッカー著 宮崎 徹 / 前川國男
賊軍の将―宮内嘉久著 南雲明男 / 「医療と現代」再生医療の現
在 富澤瑞穂
米中による世界共同管理論の台頭 叶 芳和
最近の改憲動向と立憲主義の危機 山内敏弘
狭山事件 最高裁特別抗告棄却の論理 鎌田 慧
「日本司法支援センター」の意味するもの 石田俊三郎
「現代と思想家」ナシヨナリズムと柳田民俗学…………… 橋川俊忠
前号住沢論文「憲法改正と東アジア共同体への選択」をめぐる
進藤繁一 唐亮 小林正弥 鎌谷隆 小林良暢 山田勝

特集 ポスト小泉―日本社会再生への途

- 持続可能な福祉社会…………… 広井良典
- 戦後六〇年の日米関係…………… 森田 実
- 経済システムの变化と小泉改革…………… 宮崎 徹
- ポスト小泉はインフレ政策で。激痛、政権になる小林良暢…………… 龍井葉二
- 「雇用二極化」への対抗軸とは？…………… 樋口明彦
- 若者の社会的排除に逆らって…………… 山川 修
- 日本を停滞に追いやるドルの罠…………… 山田 勝
- 安倍晋三とは何者か…………… 池田知隆
- 「コイズミ現象」にどう向き合うか…………… 鹿田勝一
- 連合16年とハート・派遣春闘への挑戦…………… 後藤邦夫
- 大学問題の現在…………… 池田祥子
- 「教育基本法」は本当に必要なのか…………… 杉田次郎
- 生協のこれまでとこれから…………… 杉田次郎
- 「深層」フランスの反乱―壊し屋と学生 木下誠／「発信」NP O法人あつたかサポート 笹尾達朗／「想うがままに」革命家として清田祐一 郎を葬送する 小寺山康雄／「この一冊」「トビ」税入門 フリュエノ・ジュタン著 千村和司／「悲所」の民族誌 沖浦和光著 阿部寛／国立公園成立史の研究 村中仁三郎著 富田武／「世界の定点観測」中国人を反日の呪縛から解放するために 有留修／「連載」松田政男が語る戦後思想の10人（第1回） 神山茂夫／「現代と思想家」エーリッヒ・フロムとフアン・ス・ム田祐介
- 再論―「日本の分岐点にたつて」護憲・改憲論争から東アジア共同体の選択へ…………… 住沢博紀
- オリブからユニオンへ―中道左派政権の新たな試練と課題…………… 松田 博
- 「沖繩」の視点から「憲法問題」を考える…………… 高作正博
- 韓国の社会運動は「危機」にあるのか？…………… 丸山茂樹
- 「労使関係ロードマップ」の失敗…………… キム・ソヨン

特集 地方の再生は可能か

- 分権推進―地方自治体求められるもの…………… 新藤宗幸
- 「新しい市民社会」の構築をめざして…………… 澤井 勝
- 分権改革六年―その可能性を検証する…………… 田嶋義介
- 米軍再編と沖繩 新たな自治体の苦悩…………… 知念清張
- 平成大台合は終わったか…………… 小原隆治
- 平成大台合は終わったか…………… 小原隆治
- 団塊の世代と地方自治…………… 岩崎恭典
- 地方は何故衰退するのか…………… 小林慶太郎
- 中越地震被災地再生の課題と運動…………… 橋川俊忠
- 地域自治と住民自治の行方…………… 星野修美
- 「深層」安倍極右政権はどこへ 山田勝／「文化時評」ジダンの頭突きと本質論を回避する日本人 陣野俊史／「メディア時評」テレビは死んだか 喜多村俊樹／「発信」「オーマイニユー」日本で発進！ 青木理／「警世問題」若い人々に語り伝えた西田照見／「この一冊」無防備地域運動の源流 池田眞紀・古川純他編著 高田健／「憲法と招魂」村上重良著 今井勇
- 中国の農村改革の現場から…………… 叶 芳和
- 東アジア共同体をめぐる三つの論点…………… 鎌谷 隆
- 憲法改正国民投票法案…………… 内藤光博
- 国家に戦没者追悼の資格は無い…………… 千本秀樹
- ついに分裂「新しい歴史教科書をつくる会」…………… 高島伸欣
- スターリン批判と日本の左翼知識人…………… 富田 武
- 「現代と思想家」中江兆民…………… 大竹政一
- 「連載」松田政男が語る戦後思想の10人（第2回） 埴谷雄高の「水久革命」と花田清輝の「前衛芸術」…………… 埴谷雄高の

特集 世界分析への視角

- 日本・アメリカの選択すべき道を探る…………… 金子 勝
- ポスト新自由主義へ向かうラテンアメリカ…………… 松下 冽
- 世界認識の新たな元に向けて…………… 杉村昌昭
- キリスト教右翼と「非愛国的資本主義」との因果関係…………… 越智道雄
- アメリカ市民のブッシュ批判…………… 寺島隆吉
- 現代イスラーム世界と「帝国」…………… 松本耿郎
- 北東アジア「危機」をチャンスに…………… 李 俊煥
- 中国からみた日本…………… 梁 雲祥
- アメリカ化しないカナダ・アメリカ化しようとする日本…………… 小畑精和
- 北朝鮮の核実験！ 国家に対抗する市民社会の安全保障…………… 山田 勝
- 「美しい国」の國體論的基底…………… 大窪 一志
- 「問題」としての二〇〇七年…………… 松田 博
- 「警世問題」核武装と国家の論理の愚かしさ 柴田高好／「メディア時評」報道の自由、日本は世界で五位 喜多村俊樹／「文化時評」PSGサポーター射殺その他 陣野俊史／「想うがままに」わたくしの医者不信 小寺山康雄／「発信」第二次Nシステム訴訟はじまる 瀧下美和／「この一冊」『参加ガバナンス』社会と組織の運営革新 坪郷實編著 藤井悠 現代政治の思想と行動 丸山真男著 米田祐介
- 中国は高級鋼を作れるか…………… 叶 芳和
- 分権改革―自治労はこう考える…………… 岡部謙治
- 新しい公共をつくる市民事業…………… 又木京子
- 憲法・教育基本法の価値を再認識させたり。21判決…………… 木村葉子
- 「現代と思想家」ケインズ／政策と理論の臨界点…………… 青木茂雄
- 「連載」松田政男が語る戦後思想の10人（第3回） 吉本隆明と谷川雁―「自立」から「直接行動」へ…………… 吉本隆明と

特集 異議申し立て

公正と連帯の思想と運動を…… 白川真澄

アメリカ化と日本的経営の変質…… 斎藤邦泰

階層の「再生産」としての格差と貧困をこえて…… 五十嵐守

「ぼやき漫談」在日のアイデンティティ…… 趙博

「韓流ブーム」／「北朝鮮パッシング」／「嫌韓流」現象と…… 安鐘

日本版ネオリベラ／「多文化主義」の「文化政治」宋…… 高津 桂

性同一性障害者の呼び…… 中村大蔵

老人ホームに見る老人の呼び…… 宮田 剛

塾から見た公教育の歪み…… 深沢 忠

市立芦屋高校はなぜ潰されたか…… 石崎たかよ

市川市男女平等基本条例全廃！…… 脇田憲一

権力・資本は連帯労働団生の何を恐れているのか…… 八木晃介

部落解放運動とは何であったのか…… 吉田智弥

歴史的決算としての同和不祥事…… 藤田敬一

「不祥事」を克服して全体の人權の底上げへ…… 組坂繁之

「想うがままに」人權を守る自治体の長として判決確定させた箕面市長 小寺山康雄／「世界の定点観測」ブラジルの影と光 橋川俊忠／「発信」経営責任のない行政システム 武藤順子

／「警世閑話」地産産業と先端企業の融合は可能か 庄谷邦幸

／「メディア時評」テレビよ、しつかりしろ 喜多村俊樹／「こ

の二冊」日本近代技術の形成 中岡哲郎著 宮崎徹 新گرام

シ伝 片桐薫著 山田 勝／「連載」松田政男が語る 黒田寛一、

無政府共産党、レポルト社

生活破壊がさらに進む…… 山家悠紀夫

改進黨民投票法案の現段階…… 飯島滋明

「日本版ホワイトカラー・イグゼンション」の本質…… 田中和夫

年金制度改革議論の方向性…… 鎌合 隆

教育再生の正体は選民思想と愛国心の強制…… 斎藤貴男

特集 メディアと権力

ジャーナリズムと「対」権力…… 原 寿雄

権力の介入と自己規制…… 松田 浩

世論調査による「民意」とは…… 川崎泰資

沖繩返還一日米間「密約」を追及できない日本のメディア…… 西山太吉

危機に立つジャーナリズム…… 金子敦郎

BBCと権力の位置…… 門奈直樹

メディアは「慰安婦」問題をどう報じてきたか？ 西野瑠美子

「正論」・「諸君」にみる歪んだ歴史認識を撃つ？ 千木秀樹

報道機関ではなく、権力の手先になった産経新聞 斎藤貴男

権力に対抗する米国の市民メディア…… 寺島隆吉

国民国家解体と再国家化のなかのメディア…… 鈴木健二

「ある視角」グラムシとジャーナリズム 松田博／「メディア時

評」あるある大事典で焼け太ったのは誰か 喜多村俊樹／「文

化時評」選ぶ人 選ばない人 選ばない人 陣野俊史／「深層」

情報機関の暴走に歯止めを 青木理／「警世閑話」学生に励ま

され、農民に教えられて 中野芳彦／「発信」地震と文化財頑

童山人／「想うがままに」追悼 存分に闘ったぞ、田中真人く

小寺山康雄／「この二冊」百川静と漢字・東洋の精神」(D

V D) 今泉博「ジャーナリズムのいま」 秋田稔

改進黨問題の新展開にどう向きあうか…… 古川 純

安全保障の平和的展開…… 前田哲男

沖繩戦教科書検定問題の背景…… 渡名喜守太

滋賀県における環境重視派の勝利の軌跡…… 鎌田明彦

日本の田舎を世界に売り込め…… 有留 修

「現代と思想家」大山郁夫を顧みる…… 西山照見

「連載」松田政男が語る戦後思想の10人 最終回 七〇年代から八〇年

代へ、現在へ 大島清 瀧澤龍彦 寺山修司、フランク、赤軍派

漂流する日本政治への視座 巻頭対談のような社会を選択するかが問われる

二〇〇七年参院選と日本政治の行方…… 早野 透×橋川俊忠

日本の政治をどう見て何を考えるべきか…… 高安健将

民主党、政権交代への正念場…… 森田 実

三つの課題の道筋を示せるか…… 井原康宏

特集 雇用・労働破壊とたたかう…… 住沢博紀

懇談会 格差社会ニッポンを撃つ！…… 小畑精武

労働破壊の原点としての「主婦のパート労働」 江原由美子

格差論争から貧困論へ…… 葛西 豊

最賃までデフレにされてたまるか…… 要 宏輝

公共サービスの雇用と公契約…… 吉村臨兵

働く若者のいま…… 徳永裕介

「介護はすでに死んでいる」の…… 水野博達

これはパート差別はなくなるなら…… 酒井和子

非正規雇用のもう一つ別の救い方…… 濱口桂一郎

職種最賃設定が「雇用格差」解消の突破口…… 小林良樹

外国人労働者政策は何処に…… 旗手 明

労働運動再生への糸口は何か…… 高須裕彦

フランスの労働破壊…… 稲葉奈々子

韓国社会における高学歴化と生存戦略…… 福島みのり

「メディア時評」安倍改進黨路線の挫折 喜多村俊樹／「深層」韓

国で進行中の労働破壊 李正九／「ある視角」ワーキングプア

現状報告 信友直子／「警世閑話」軽すぎた安倍発言 江川弘／「こ

の二冊」格差社会ニッポンで働くということ」 熊沢誠著 本田

由紀「われひとつぶの妻となりて」尾崎庄太郎著 牛越（孝） 昭昭

／「現代と思想家」ウエップ夫妻とフェビアン協会 名古屋行

「戦う昭和天皇」を顕彰する論理…… 千木秀樹

安倍教育改革の転倒した「公」概念への批判…… 池田祥子

グラムシは世界でどう読まれているか…… 片桐 薫

特集 日本國家の品格を問う

巻頭対談 戦後補償問題からみた日本：今村嗣夫×高橋哲也
あいまい 國家日本の由来…………… 橋川俊忠

ブラジル移民と遠隔地ナショナルリズム…………… 深沢正雪

この国に「かたち」はあるのか…………… 川原崎剛雄

人類館事件と差別の序列…………… 千本秀樹

「沖繩」をヤマトに投げ返す沖繩の戦略…………… 柳下 換

「ネット右翼」の道德概念システム…………… 能川元一

帝國日本による朝鮮鉄道政策の虚と実…………… 鄭 在貞

さらば宮台真司…………… 後藤和智

今求められる、國家に騙されないための教育…………… 神本美恵子

「思うがままに」寄る辺を求める人々 小寺山康雄／文化時評
非正規労働者たちの声を表象する表現は？ 陣野俊史／『響世

開話』労働教育の推進を提言する 高木郁朗（この一冊）『職
吐』サルトル 小畑精和／異邦の記憶―故郷・國家・自由 金

友子／『読者論壇』参議院選挙における党名記載の比例票の扱
い 鎌田明彦

対談 民主主義社会における人種主義と暴力…………… ミシェル・ヴィヴィオルカ×姜尚中

中国・内モンゴルの環境問題は改善に向かうか 叶 芳和
…………… 朴 露子

韓国と帝國主義…………… 鴨田哲郎

解雇の自由を許さず、有期雇用を規制を！…………… 安田浩一

働き方、働かせ方に例外があつてはならない…………… 井下田猛

疲弊する地域と自治の現状と蘇生策…………… 瀬下美和

「ITで子供を守る」の先に何があるか…………… 松本 収

『現代と思想家』マキャベツェリ…………… 松本 収

特集 グローバル資本主義の終焉か

巻頭対談 文化や伝統を破壊するグローバル化にどう対抗
するか…………… 辻井 番×小島晋治

サブプライム危機がグローバル経済の本質的危機を露呈
させるか…………… 水野和夫

ドル帝国は終焉に向かつて…………… 山川 修

EUの結束政策の現段階…………… 八木紀一郎

グローバル雇用危機の最先端事情…………… 小林良暢

グローバルゼーションと福祉ガバナンス…………… 宮本太郎

東アジア共同体形成の現状をみる…………… 金子文夫

多文化主義の功罪…………… 小畑精和

地球環境と持続可能な社会を考える…………… 松下和夫

「民主的」な水の運営に向けて…………… 山本奈美
洞爺湖サミットと世界の反グローバルゼーション運動…………… 湯川順夫

国際労働運動の展望を探る…………… 中嶋 滋
トヨタ・イン・フィリピン…………… 遠野はるひ

「思うがままに」忘れがたき人① 安東仁兵衛さん 小寺山康雄
…………… 『響世論壇』マスコミ 終りの危機的状況 一木 玄／『アディ

ア時評』テレビの凋落…………… 喜多村俊樹／「ある視
色」放池山重朗と原水禁運動和田長久／『読者論壇』さらに一
歩踏み込む「生命の切捨て」 太田彰

対談 江戸時代はグローバルだった…………… 田中優子×橋川俊忠

常識を越えた江戸時代の鉱夫集団「友子」…………… 村串仁三郎

中国・上海の環境問題はビークアウトしたか…………… 叶 芳和

韓国の「過去清算」と日本…………… 金 東椿

深まる介護労働の危機…………… 石毛鏡子

今なぜグラムシか？…………… 黒沢惟昭

特集 境界線と現代政治の再構成

政治と境界線をめぐって…………… 杉田 敦
対談 国境線を越えた新たな連帯の可能性…………… 姜尚中×杉田敦
デモクラシーと差異…………… 山口二郎

現代日本と政権交代への権力論的アプローチ…………… 住沢博紀

欧州近隣諸国政策における「曖昧性」の役割…………… 蓮見 雄

境界線を越えた後の政治学…………… 大賀 哲

境界線上の沖繩…………… 江原由美子

境界線をまたぐ人びと…………… 比屋根照夫

求められる発想の柔軟性…………… 金 敬熙

「ある視色」辱めを雪ぐ／日本最大の冤罪（大逆事件）からまも
なく百年 西村秀樹／世界の定点観測「政権交代」と「移民政
策」で復元力を維持するアメリカ 若林秀樹／「文化時評」フツ

トポールと小説の「根源的愉しみ」 陣野俊史／「深層」宮中晚
餐会報道がさすはじめた？ 千本秀樹／『響世開話』若者へ、
協同組合への誘い 小塚尚男／「思うがままに」忘れがたき人②
山六さん、原全さん、そしてお雪さん 小寺山康雄／「この一冊」

「中国の社会階層と貧富の格差」 李強著 王維亭「正義の労働運
動ふたたび」 要宏輝著 小畑精和 南京大虐殺 記憶の暗殺 内
山薫著 矢代俊三

対談 政治と境界線をめぐって…………… 杉田 敦

政治と境界線を越えた新たな連帯の可能性…………… 姜尚中×杉田敦

デモクラシーと差異…………… 山口二郎

現代日本と政権交代への権力論的アプローチ…………… 住沢博紀

欧州近隣諸国政策における「曖昧性」の役割…………… 蓮見 雄

境界線を越えた後の政治学…………… 大賀 哲

境界線上の沖繩…………… 江原由美子

境界線をまたぐ人びと…………… 比屋根照夫

求められる発想の柔軟性…………… 金 敬熙

「ある視色」辱めを雪ぐ／日本最大の冤罪（大逆事件）からまも
なく百年 西村秀樹／世界の定点観測「政権交代」と「移民政
策」で復元力を維持するアメリカ 若林秀樹／「文化時評」フツ

トポールと小説の「根源的愉しみ」 陣野俊史／「深層」宮中晚
餐会報道がさすはじめた？ 千本秀樹／『響世開話』若者へ、
協同組合への誘い 小塚尚男／「思うがままに」忘れがたき人②
山六さん、原全さん、そしてお雪さん 小寺山康雄／「この一冊」

「中国の社会階層と貧富の格差」 李強著 王維亭「正義の労働運
動ふたたび」 要宏輝著 小畑精和 南京大虐殺 記憶の暗殺 内
山薫著 矢代俊三

対談 政治と境界線をめぐって…………… 杉田 敦

特集 地球環境危機への挑戦

黒沢 日本 の環境政策確立へ何が必要か

井田徹治 鮎川ゆりか 松下和夫

気候変化への対応は第三の革命を必要とする… 西岡秀三
低炭素社会への環境経済戦略 … 一方井誠治
国内排出量取引制度導入の課題 … 諸富 徹
どこがおかしい日本のエネルギー政策 … 飯田哲也
持続可能な福祉社会と水源地帯 … 倉坂秀史
今求められる日本の環境政治とは … 今本秀爾
東京都の気候変動対策 … 大野輝之
地域からの政策革新 … 牧野光朗
地震列島の原発問題 … 武本和幸

「メディア時評」権力の陰謀と目くらまし 喜多村俊樹 / 「世界
の定盃観測」米中関係が決まる次期政権下の日米関係 若林秀
樹 / 「文化時評」北京オリンピックあれこれ 陣野俊史 / 「想う
がままに」挫折した「市民革命」―箕面市長選の敗北 小寺山康
雄 / 「この一冊」『蟹工船』小林多喜二 / 「富田武」 / 「不敗の農
民運動家矢後福藏」北山郁子編 井下田猛 / 「下ユタ・イン・フイ
リピン」遠野はるか・金子文夫著 藤本伸樹 / 「伝統・文化のタイ
ネあか」千本秀樹・長谷川孝他著 辻井康夫 / 「読書論議」(あ
の戦争)と(この日本) 花井吉宅

「休息時間」なくして「ワーク・ライフ・バランス」なし

小林良暢
労働契約法から「労働関係基本法」へ … 田中清定
「近代」の子ども観・子ども政策の皮肉 … 本田和子
内なる敵対性 … 尹 汝一
座談会 苦闘する大学自治会の今を語る

モンゴル雜記 … 京都精華大学 京都大学 立命館大学
金高 毅
資料 中華人民共和国労働契約法 … 劉偉

特集 恐慌前夜か 変革前夜か

世界金融危機の実相と日本の針路 … 金子 勝
経済政策―何をなすべきか … 山家悠紀夫
激震・非正規リストラ対策はこれだ … 小林良暢
サブプライム恐慌にどう立ち向かうか … 奥村 宏
アメリカ金融資本主義の終末 … 山川 修
対談 閉塞状況に沈む日本の突破口 … 早野 透々 橋川俊忠
政権交代の次に来るもの … 住沢博紀
「米国以後」の「無極」化する世界 … 金子敦郎
オバマ圧勝、究極の民主主義、その光と陰 … 北岡和義
二一世紀情報革命が促す東アジア共同体 … 進藤榮一

「ある視角」危機における「伝統・文化」による国民統合 千
本秀樹 / 「頂門一針」今だからこそ希望を語ろう 頑童山人 /
「この一冊」『政治とウィジョ』シエルドン・S・ウォーリ
ン著 井柳美紀 / 『地域マネジメントと起業家精神』影山喜一
編 千葉立也 / 「メディア時評」一〇〇年に一度のパラダイム転
換 喜多村俊樹 / 「想うがままに」忘れがたき人③青年のまま
逝った中島秋生さん 小寺山康雄

「ケアのジャーナリズム」試論

林 香里
今求められるフェミニズム労働分析 … 竹中恵美子
市民の手で(9)条を世界化できるか … 安藤 博
大学の(キャリア)教育は社会的連帯に資するののか? … 筒井美紀
大学闘争四〇年に想う … 富田 武

市民運動の経験をとのうに継承していくか … ブルーバース
日本的「教育を受ける権利」の精神と問題 … 田中萬年

特集 強欲資本主義からの訣別

日本再生の道はこれだ … 榎原英資
グローバルにみた政権交代後の政策課題 … 住沢博紀
対談 民主党の政治構想力を問う … 仙谷由人×山口二郎
グリーン・ニューディールは世界を救えるか … 松下和夫
非正規労働者をどう救うべきか … 濱口桂一郎
格差拡大と「新しい階級社会」 … 橋本健二
相互扶助と自治の復権を … 千本秀樹
「知の持続可能性」への不安 … 後藤邦夫
世界同時不況の突破口 … 叶 芳和
誰が犠牲手に? … 朴 権一

「ある視角」世界金融危機の頭末と余波 宮原卓一 / 「響世問話」
日本よ、世界の「新しい現実」に直面せよ 久保孝雄 / 「メデイ
ア時評」政権交代が試されている 喜多村俊樹 / 「この一冊」『東
京裁判 第二次大戦後の法と正義の追求』戸谷由麻著 橋川俊
忠 / 「ハリウッドの密告者」1950年代アメリカ V・S・ナ
ヴァスキー著 黒田貴史 / 「障害者はどう生きてきたか」戦前・
戦後障害者運動史 杉本章著 小林敏昭 / 「深層」揺れる立命館
大学 本誌編集部 / 「発信」今こそ若者たちに労働・社会教育
を 笹尾達朗

「中東和平」は絶望ではない

金子敦郎
グラムシの恐慌論と新市民 … 片桐 薫
このままでいいのか裁判員制度 … 石田省三郎
なぜ食の安全を脅かす事件が続出するか … 柿田みどり
「労働運動の明日を探る」

社会運動としての連合再生を … 笹森 清
連合よ、正しく強かれ … 要 宏輝
国際比較の観点から見た連合運動 … 田端博邦

特集 **転換点に立つ世界**

- 歴史の転換点に立つ東アジア……………池 明観
- アメリカ金融危機と資本主義の救済……………小野塚佳光
- 「使えない兵器」から「使わない兵器」へ……………金子敦郎
- 新国際無秩序の中のロシア……………下斗米伸夫
- 大競争時代に生き残るのはどこか……………伊藤英一
- 中国の輸出依存度再論……………叶 芳和
- ラテンアメリカの現状と国際政治……………松下 冽
- インドの「万人のための経済成長」をみる……………近藤正規
- 21世紀型「世界大失業」の時代……………小林良暢
- 「世界の定点観測」カンボジアから 開発の光と影 上村未来 / メディア時評……………
- 生誕一〇〇年の作家たち、その他 陣野俊史 / 「現代と思想家」思想からみたマルクスの場昭弘 / 「思うがままに」忘れがたき人④ 外柔内剛の人 大森誠人さん 小寺山康雄 / 「書評」武庫川ユニオンの到達点と展望 小西純一郎 / 「この一冊」スウェーデンの政治「岡澤憲美著 数中千乃」政治的なものについて」シャタル・ムフ著 松田博
- 民主党政権はこのように政治を変える……………福山哲郎
- セーフィーネットを強化し社会的配分を変える 阿部知子……………
- 年越し派遣村が可視化したもの……………東海林智
- 雇用ポートフォリオ・システム改革の視点……………仁田道夫
- 反貧困運動をどう見るか……………
- ドイツから世界に発信……………
- 「労働運動の明日を探る」……………
- なぜ集团的「労働運動」は成立しないのか……………吉岡賢二
- ユニオン運動の可能性と展望を探る……………小畑精武

特集 **民主党の革命——日本が変わる**

- 「律儀な人々」の革命……………住沢博紀
- 対談 民主党革命と日本政治の行方 早野透×橋川俊忠……………
- 「政権交代」の歴史的意味を考察する……………橋川俊忠
- 財源をどこに求めるか……………山家悠紀夫
- 日本の安全保障と核軍縮への道……………高原孝生
- 労働政策——民主党政権の課題……………濱口桂一郎
- 年金制度の何が改革されるべきか……………駒村康平
- 民主党に代わって「成長戦略」をつくる……………小林良暢
- 環境エネルギー政策の行方と期待……………飯田哲也
- 国連が日本政府に厳しい勧告……………千本秀樹
- 「政権選択」選挙と転換期の市民社会……………松田 博
- 分権改革から「市民自治法」へ……………澤井 勝
- 実存か政策提言か……………鈴木英生
- 今がチャンス、「サードセクター」形成へ……………濱口金也
- 「深層」政策決定過程で問題残る連立合意 榎原保 / 「メディア時評」政権交代——日本の政治とメディアは変わるか 喜多村俊樹 / 「書評」総選挙を見て、巨視的将来を一考する 西田照見 / 「思うがままに」自公にとどめを刺せ 小寺山康雄 / 「文化時評」庄野潤三、のりピー、ある私小説作家 陣野俊史 / 「この一冊」1968 小熊英二著 富田武 / 「読者論壇」追悼「朝までテレビで討論する革命家」上田耕一郎 斎藤邦泰
- 「出口」見えないアフガニスタン戦争……………金子敦郎
- 違憲のデバートと化した裁判員裁判……………橋詰悦狂
- 君主の政治的機能とベルギーの分裂危機……………松尾秀哉
- ヘーゲルとマルクス……………アンドレアス・アルント

特集 **民主政権 問われる推進力**

- 新書巻頭インタビュー 仙谷由人 大臣大いに語る……………
- ただすべきは日米関係のゆがみ……………金子敦郎
- 早野透がみた民主政権の100日……………早野 透
- 民主党政権の財政政策を斬る……………神野直彦
- 東アジア環境共同体再論……………叶 芳和
- デフレ下の成長戦略とは何か……………水野和夫
- 新政権下 重要性増す連合の役割……………古賀伸明
- 新たな国づくりに向けた雇用政策……………西村 理
- 緊急雇用対策への政策提言……………小林良暢
- 貧困調査から総合政策の構想へ……………橋本健二
- 「普天間」異外移設は県民意志……………知念清張
- 新政権で地域主権は成るか……………辻山幸宣
- 野田市が公契約条例で最低賃金定める……………小畑精武
- 「頂門——針」民主政治と忍耐刀 頑童山人 / 「メディア時評」暴かれた国家のうそ——日米沖繩密約 喜多村俊樹 / 「文化時評」時代の証言を集めるとは、偏った意見を集めることにはかない 陣野俊史 / 「ある視色」裁量行政の悪弊——雇用保険にも 矢代俊三 / 「この一冊」竹中恵美子の女性労働研究50年」竹中恵美子著 池田祥子「ろうそくデモを越えて」川瀬俊治・文京浜編 小田切智剛
- 「小特集・教育再生への道を探る」……………
- 「教育改革」批判と対抗的教育運動の課題……………玉田勝郎
- 小泉流「食育」批判……………森本芳生
- 人権闘争としての定時制高校存続運動……………吉田 豊
- ドイツから世界に発信……………
- 「第三次産業革命」は可能か？……………
- マルティン・イエーニツケ……………クラウス・ヤコブ
- 解説……………クラウス・オッフエ ユルゲン・コツカ
- コメント……………長尾伸一

特集 民主政權・日米中・安保・沖縄

民主党と政策としての日米安保

核抑止の虚構―終わりのときが始まる

日米・日中経済関係と民主党政権

新政権下、「積極的護憲」の道を探る

世界の安定こそ最大の安全保障

民主政権は過渡期の試練に耐え進む

正念場を迎える新政権の経済運営

中国の環境負荷ピークアウトはいつか

象徴天皇制と日米安保に代わる国体は

安保闘争と「市民としての抵抗」のゆくえ

沖縄の歴史意識が生んだ非戦反戦の思想

「いのちの海」を守り抜く沖縄のたたかい

沖縄を地域安全保障体制の拠点に

「頂門一針」発想転換を迫られる安全保障問題

「メディア時評」マスメディアは55年体制の最終ランナー？

「理想がままに」人生の起点六〇年安保闘争

「文化時評」何とかならぬか、ひたすら国民を煽っていく

風潮「陣野俊史」現代と思想家

「現代を問うマルクスの疎外論」岩佐茂

「若者と希望」拝啓、あの頃の僕らへ

「この一冊」戦間期の日ソ関係

「小林良暢著 小畑精和」深層 民主党は利権政への変質を止められるか

「佐伯晴夫」読者論壇 教育、創出。の転換と現代教育の蘇生策

「教育再生への道を探る」

子どもの「危機」と教育のモラリズム

ろう者へ伝える歴史学

朝鮮学校、襲撃を許すニホンでいいのか

「抗う人」沖縄密約を暴いた記者

住沢博紀

金子敦郎

金子 勝

前田哲男

福山哲郎

枝野幸男

宮崎 徹

叶 芳和

千本秀樹

道場親信

比屋根照夫

山内徳信

後田多敦

頑童山人

秋田 稔

小寺山康雄

米田祐介

ルポ雇用劣

田中 恵

藤井幸之助

西村秀樹

広瀬義徳

田中 恵

藤井幸之助

西村秀樹

西村秀樹

西村秀樹

西村秀樹

特集 管新政権の戦略はこれだ！

対談 菅政権は、最後の希望政権か

政権交代をなせ生かせなかつたのか

菅新政権―四つの制約と突破力

民主党政権の指導力を問い直す

失敗重ねた米戦略への追従をやめよ

大政交代は望ましいのか

増税による新たな成長の可能性

金融の視点から日本の財政赤字を考える

東アジアの時代、北九州がおもしろい

「最小不幸社会」の雇用・年金戦略

地方分権の現在にはらむもの

何のための派遣法改正？

「定見観測」沖縄戦終結65年の「慰霊の日」

「又メディア時評」日米同盟に追従

「ある視座」生まれてきたら北朝鮮

「若者と希望」現代と思想家

「これぞ日本人は」戦争を運んだ

「名張事件」男はブドウ酒に毒を入れたか

小特集 ●東アジア共同体をどう構築するか

東アジア共同体と民主党外交

アジアの経済統合と「共同体」論

国家戦略で欧米への排出権流出を防げ

「教育再生への道を探る」

「子どもの危機」の現状と打開への視座

現場に任せろ！

「抗う人」大連事件の志を継ぐ

透×橋川俊忠

山口二郎

住沢博紀

高安健博

金子敦郎

小野 一

山川 修

上川 孝夫

叶 芳和

秋野純一

秋野純一

東海林智

長谷川俊

森 潤

安藤博

若栗悠樹

西田照見

岡本萬壽

岡本萬壽

進藤榮一

平川 均

大塚俊和

尾木直樹

大谷和雄

大谷和雄

大谷和雄

大谷和雄

大谷和雄

特集 日本の近現代史を問う

歴史を共有するものが未来を共有する

インタビュー 歴史認識の共有と市民共生の道へ

歴史認識を歪ませるものは何か

日本と韓国、歴史意識の相克

「明るい明治」と「暗い昭和」の分断史観

小日本主義の可能性

満洲国から浮かび上がる「日本」

鎖を断ち切ろうとする琉球の人々

帝国主義と国際主義

大杉栄のアナーキズムと現代

若者は「従軍慰安婦」問題をどう考えたか

七〇年代日本女性のアジア認識

「08」はエンタテイメントだ

「ある視座」福沢諭吉「脱亜論」を読む

NHK告発、大相撲「スゴミ」

「戦争小説」書き残すもの

「その姿容」解体過程

「レント」現代への教示

国家戦略室を自民党との協議機関に

民主党の再生は可能か

世界につながる広島・長崎の「願い」

中国の東北拠点・瀋陽が熱い！

「抗う人」横浜事件・司法の戦争責任を問う

千本秀樹

和田春樹

橋川俊忠

文 京洙

安川寿之輔

増田 弘

遠藤正敬

後田多敦

富田 武

飛矢崎雅也

鈴木孝輔

朴 宣美

小畑精和

杉田聡

秋田稔

陣野俊史

菅と小沢の経済政策

「命のバト」という名

「若者と希望」暗闇の中の光

「レント」現代への教示

住沢博紀

桐原 保

金子敦郎

叶 芳和

西村秀樹

西村秀樹

西村秀樹

西村秀樹

特集 若者の未来は拓けるか

- 若者の未来を拓くために…………… 友田有史
- 戦後史における若者の貧困…………… 橋本健二
- 若者雇用と人材養成の戦後史…………… 濱口桂一郎
- 若者無業と新卒採用システムの転換…………… 藤森克彦
- 若者無業と新卒採用システムの転換…………… 小林良暢
- さあ、私たちの物語をはじめよう…………… 若者座談会
- 労働法教育・若者の社会への移行支援…………… 吉田美穂
- 大学教育と職業キャリアとの接続…………… 上西充子
- 非正規労働の本質はどこにあるか…………… 中島ゆり
- 営利を迫る経営者と「子供化」する学生…………… 吉田和明
- 何もないから、何でもできる…………… 本村拓人

- 「想うがままに」といまでいくのか知性の劣化 矢代俊三／「現代と悪魔」大熊信行「国家への訣別宣言―「愛国心」の戦争責任を問う 今井勇／「この一冊」『経済学・哲学草稿』長谷川宏訳、『共産党宣言』的場昭弘訳、岩佐茂『公契約条例入門』小畑精武著、吉村隆兵／「読者論壇」『平和的生存権』こそが希望 花井吉宅
- 多文化、主権の相対化時代の政治…………… 江田五月
- 対談「菅政権の六か月を振り返る」…………… 早野 透×橋川俊忠
- 米国はどこへ行くのか…………… 金子敦郎
- T P Pと日本農業の未来…………… 叶 芳和
- 与野党に問われる熟議の経済論戦…………… 宮崎 徹
- 領土問題を政争の具にする愚かき…………… 橋川俊忠
- デモクラシーの自壊―言論が死んだ日…………… 鈴木健二
- 特捜検察「完敗」の構図…………… 酒田英紀
- 瀕死の地方議会と根源的蘇生策…………… 井下田猛
- 「抗う人④」新聞の戦争責任を問う―むのたけし…………… 西村秀樹

緊急発信

- 巨大な、あまりにも巨大な！…………… 橋川俊忠
- 東日本大震災と原発事故下の日本政治…………… 住沢博紀
- 特集 帝国アメリカの黄昏…………… 金子敦郎×橋川俊忠
- 対談「いま、アメリカをどう見るか」…………… 金子 勝
- なおも地盤沈下続けるアメリカ経済…………… 前泊博盛
- 沖繩と米国―占領と隷下からの脱却…………… 菅 英輝
- 9・11後の米国外交の歴史的位相…………… 海野素央
- オバマ草の根vsティーバーティー…………… 金子敦郎
- 中東激動「二重基準」の米戦略が破綻…………… 高須裕彦
- 「抵抗」を掲げるアメリカ労働運動…………… 高須裕彦

- 「ある視角」破綻した欧米の論理 9・11時代の終焉 伊藤英一
- ／「深層」緊急発信―福島原発震災 喜多村俊樹／「発信」東日本大震災に遭遇して 大島正祐／「文化時評」人間の記憶の力による文化の再生 陣野俊史／「若者と希望」心が困ったときの家出先 川島祐一／「この一冊」『サリドマイド事件全史』川俣修壽著、保坂展人「人間の往住」大井玄著、赤松智孝
- ジャズミン革命とその光と影…………… 北岡和義
- コメ輸出1000万トンの到来か…………… 叶 芳和
- 消費税10%で究極の年金改革…………… 小林良暢
- 武力挑発の政治学…………… 小此木政夫
- 北朝鮮後継体制のゆくえ…………… 石坂浩一
- 高校ラグビー二つの両校優勝…………… 内田雅敏
- デモクラシーの自壊―朝日新聞のお家騒動…………… 鈴木健二
- 北方領土問題と根室住民の立場―ブラッド・ウリアムス…………… 玉田勝郎
- 「教育再生」への途を探る…………… 玉田勝郎
- 「抗う人⑤」夜間中学・武器となるコトバを―高野雅夫西村秀樹…………… 西村秀樹

特集 3・11は何を問うか

- 鎮魂と再生のために…………… 赤坂憲雄
- 文明史的転換の担い手は誰か…………… 橋川俊忠
- 国家対抗する社会と原発責任…………… 千本秀樹
- 原子力発電の「安全神話」溶解…………… 小出裕章
- 日本のエネルギー政策はこれだ…………… 飯田哲也
- 再生可能エネルギーこそ日本の突破口…………… 金子 勝
- ドイツの脱原発・環境戦略…………… 松下和夫
- 3・11と日本の科学技術のガバナンス…………… 後藤邦夫
- ポスト3・11―日本政治再生の条件…………… 住沢博紀
- 東日本大震災と日本官僚制…………… 内山 融
- 今何故「スローライフ」の政治(学)か…………… 丸山 仁
- 日本の地域構造の崩壊と自治の課題…………… 辻山幸宣
- 大震災から生まれる三つの「元年」の萌芽…………… 上林陽治
- 「上関原発」反対運動からの未来創造…………… 飛矢崎雅也
- 大地震の時代と原発震災…………… 石橋克彦

- 「想うがままに」東北・関東の大災害が照射したものを 小寺山康
- 雄／「深層」もういちど原発発・脱原発運動の再構築だ 木村
- 勝昭／「この一冊」獄中ノート著作集Ⅶ「サバルタンノート」…………… 注釈―アントニオ・グラムシ著 小原耕一
- 中東新情勢―「過去」の清算を急ぐ…………… 金子敦郎
- 大阪都構想という虚構…………… 澤井 勝
- ジョブ・カード制度の「通説」再考…………… 筒井美紀
- 「労組法上の労働者性」を判断した最高裁…………… 水谷研次
- 「抗う人⑥」原発神話を衝く京大「熊取六人組」―小林圭三…………… 西村秀樹

特集 脱原発へ日本の針路

対談 脱原発へ 日本政治の革新を

飯田哲也×金子勝×沢田博紀

脱原子力社会へ……

長谷川公一

原子力経済と原子力政治の見直しを

井田徹治

「原子力推進複合体」の形成

秋元健治

問われる人間への想像力

橋川俊忠

原発責任と戦争責任

千本秀樹

自治体発のエネルギー転換への道筋

坂坂展人

大震災と「社会的事業所促進法」の緊要性

柏井宏之

低線量の被曝への恐怖感は当然

福島 肇

対談 日本政治「最後の希望」はどこへ行ったか

早野 透×橋川俊忠

【深層】震災からみえてくる「脱・戸籍」の要請 遠藤正敏／「文

化時評」などでシヤパン、「西海原子力発電所」陣野俊史／

「ある視点」野田・増税 内閣「国家の信用」を懸けた瀬戸際

の勝負 小林 良輔「想うがまま」追悼 赤松徳治さん 小寺

山康雄／「の」(一冊)依存と自立の倫理 金井淑子著 池田 祥

子「新装版・人間と放射線」J・W・ゴフマン著 喜多村俊樹「地

球環境への旅」松下和夫著 河野博子

米国は、そして世界はどこへ？

金子敦郎

統「トヨタ・イン・フィリピン」……

遠野はるひ

どうして米騒動は起こったか

鈴木健二

情報革命をもたらす新しい社会

蒲生 猛

シベリア抑留問題究明はどこまで

富田 武

「教育再生への道を探る」

玉田勝郎

「抗う人」② 司法の原発責任を問う／井戸謙一

西村秀樹

12年春 VOL.30 終刊号

特集集 日本はどこへ？希望はどこに

未完の平成デモクラシー……

住沢博紀

民主党政権の挫折が明らかにしたもの

山口二郎

社会システムの「再稼働」と「神話的政治」

杉田 敦

分散・ネットワーク型社会へ

金子勝

「創造的定常経済」のビジョン

広井良典

世界経済の大転換

水野和夫

野田政権の経済政策と人々の暮らし

山家悠紀夫

3・11からグリーン経済を考える

松下和夫

迷走する「社会保障と税の一体改革」

小林 良輔

擬制資本の限界から新たな理念構築へ

山川 修

「オバマ再選」へ新情勢

金子 敦郎

知性の劣化と知識人の責任

橋川 俊忠

責任を語りつぐということ

千本 秀樹

日本型雇用システムの歴史的位置

濱口 桂一郎

日本労働運動再出発のための断章

龍井 葉二

「文化時評」いろいろな言語による文字から、震災と原発事故を

考える 陣野俊史／「ある視点」トリアッティの魂」と「グラ

ムシの魂」富田武／「深層」旧植民地出身者が「外国人」となっ

た日 遠藤正敏／「想うがまま」こんなことを許していいの

か 小寺山康雄／「の」(一冊)官報複合体 権力と一体化する

新聞の大罪」牧野洋著 宮崎崎／「至者と希望」僕と「現代の理

論」米田祐介

多文化共生論の幻想

小畑 精和

震災における「ケアのジヤナリズム」

林 香里

幸せの国「ブータン王国紀行」

叶 芳和

沖縄よこへ行く

後田 多敦

破壊が明確になり始めた大阪都構想

澤井 勝

権力の暴走——橋下教育改革の悪夢

池田 知隆

学校のための共同性の再生

池田 祥子

超高齢社会、必然的な「持続的社會」構想

水野 博達

「教え・勉強」から「学び・遊び」の教育へ

飛矢崎 雅也

座談会もすくすく三丁路六年後の子どもたち 元筑波大学女子学生

山崎 春成

「抗う人」③ 民に寄り添い差別に抗う／沖浦和光 西村秀樹

山崎 春成

第二次「現代の理論」休刊号一九八九年二月号

第一次「現代の理論」は一九五九年の五月に創刊される。井汲卓一、長洲一二、安東仁兵衛氏らが中心となって、マルクス主義、社会主義の革新を掲げるが、共産党中央の圧力で五号で停刊。多くの人が六〇年安保以降脱党し、六四年二月に第二次「理論」が復刊。八九年二月に休刊するまで四年半の季刊時期を除き月刊で発行された。以下、第二次「理論」休刊号に寄せた皆さんの名前を列記し紹介する。

(編集部)

●特集Ⅱ戦後史と「現代の理論」

井汲卓一 長洲一二 佐藤 昇

飛鳥井雅道 池山重郎 石川真澄

岩見隆夫 沖浦和光 小尾俊人

海江田万里 菅 直人 貴島正道

橋川俊忠 久保孝雄 小寺山康雄

坂本和子 坂本義和 篠原 一

柴田 翔 田中悦子 筑紫哲也

堤 清二 永井清彦 中岡哲郎

西田照見 日高六郎 広岡守穂

船橋成幸 前田哲男 正村公宏

松下圭一 丸山真男 緑川 亨

宮城健一 宮崎 徹 武藤順子

山崎春成 山内孝郎 横田克己